

会議の名称	令和8年度第1回茅野市行財政審議会		
開催日時	令和8年4月30日(木) 18時30分～21時30分		
開催場所	茅野市役所8階 大ホール		
出席者	※出席委員等：矢崎副会長、足立委員、牛山(玲)委員、外立委員、立木委員、矢崎委員、阿部委員、牛山(浩)委員、小泉委員、小山委員、柳澤委員、吉田委員、津金委員 ※市側出席者：今井市長、柿澤副市長、森井総務部長、丸茂健康福祉部長、両角産業経済部長、五味こども部長、小池生涯学習部長、北澤議会事務局長、北澤会計管理者、大蔵企画課長、渡辺学校教育課長、朝倉観光課長、原田財政課長、松田財政係長、小平行革推進係長、太田行革推進係主査		
欠席者	小平会長、鈴木委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	5人 (うち報道2人)
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
	議事 1 開会 . . . 2ページ 2 委員委嘱 . . . 2ページ 3 市長挨拶 . . . 3ページ 4 自己紹介(資料1) . . . 4ページ 5 正副会長選任 . . . 4ページ *委員から意見あり . . . 5ページ ・各委員の発言における立場の明確化について *事務局の腹案を求める意見あり . . . 7ページ *事務局案について承認 . . . 7ページ 会 長：小平淳委員 副会長：矢崎貞和委員 6 会議の公開について(資料2) . . . 8ページ *会議の公開についての事務局から説明後、会議の公開について及び報道機関の撮影と録音の許可について承認 7 会議事項 (1)茅野市の状況について(資料3) . . . 8ページ *事務局から説明 *委員から質問・意見あり . . . 9ページ ・市税の内訳等について、病院の経営や診療報酬について、基金について、人口の推移と税収の関係について、ふるさと納税の金額の詳細について (2)茅野市行財政審議会について(資料4) . . . 18ページ		

	<p>①審議会の役割（資料5）</p> <p>②行財政に係る計画（資料6、資料7）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>*事務局から①②について一括説明</p> <p>*委員から質問・意見あり・・・18ページ</p> <p>・行政区の見直し検討について、区・自治会への支援について</p> </div> <p>③前期審議会の審議概要（資料8）</p> <p>④今期審議会の進め方</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>*事務局から③④について一括説明</p> <p>*委員から質問・意見あり・・・21ページ</p> <p>・計画策定(改革項目の選定等)における審議会の関わり方について</p> </div> <p>(3)その他</p> <p>①スケートセンターの検討状況について（資料9）・・・21ページ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>*市長から検討状況について説明</p> <p>*委員から質問・意見あり・・・24ページ</p> <p>・スケートセンターの市側の判断に対する今後の審議会のあり方について、スケートセンターの令和7年度の実績について、委託料以外の補助について</p> </div> <p>②学校に係わる地域対話の取組について（資料10）・・・25ページ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>*担当課から説明</p> <p>*委員から質問・意見あり・・・27ページ</p> <p>・成長戦略としての教育(教育移住)について、アンケートの実施時期について</p> </div> <p>8 その他・・・31ページ</p> <p>(1) 次回行財政審議会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>*事務局から説明</p> <p>*委員から質問・意見なし</p> </div> <p>9 閉会・・・32ページ</p> <p>【議事録】</p> <p>1 開会</p> <p>皆さんお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから令和8年度第1回茅野市行財政審議会を始めさせていただきます。</p> <p>本日、小平委員から欠席のご連絡がありましたのでご報告させていただきます。</p> <p>それでは、次第に沿いまして会議を進行させていただきます。</p> <p>2 委員委嘱</p> <p>次第2、委員委嘱ということで、本日から2年間、行財政審議会の委員としてご委嘱をさせていただきます。市長が皆様のお席を回り委嘱書を交付い</p>
--	--

財政課長

財政課長

市長

たしますので、ご自席にてお立ちいただきお受け取りいただきますようお願いいたします。

(市長から委員へ委嘱書の交付)

3 市長挨拶

皆さんこんばんは。大変お忙しい中またお疲れのところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、ただいま皆様方に委嘱書をお渡しさせていただきました。これから2年間、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、今回はメンバーが一新して第1回目の行財政審議会になりますが、この行財政審議会は、後で目的などは説明があるかと思えますけれども、私が多くを望むところは、職員が変わらないと、市民も変わらないと思っております。今までの行政のやり方を変えていかなければいけないと思っております。

例えば、行財政審議会に何か審議をお願いして、答申が出たら、それをお墨付きにしてやるというのが昔のやり方になるのですが、私はそこにとらわれるつもりは全然ないというところがございます。

やはり、まちづくり状況や背景が変わってきている。人口減少や、少子化、高齢化など、様々背景としてあるのですが、その中で何が起きているかという、例えば介護保険料や高齢者の医療の負担金は、黙っていても、毎年毎年上がっている状況です。

そうした状況の中で、茅野市には公共施設がたくさんある。そういった公共施設を全部直していくのか或いはある程度集約をするのか、そういうことを決めずに進んでいくと、行き当たりばったりになってしまい、財政を平準化したくても、その辺がはっきりしなければ、平準化もできないという状況が、今我々が置かれている状況であります。

それを何とか体制を立て直すためには、まず、今までの茅野市の市政のやり方を1回全部見直す必要があると思っております。

それは何も前のやり方がいけないということ言っているのではなく、時代に合わせるということをやっつけていかなければいけないということでもあります。その時代時代で、正しいと思ってやってきたけれども、それを今も同じようにやれるのか、或いはやるのが本当にいいのか、そこを見直していかなければいけない。

今、すべての事業の見直し作業をやっているけれども、それはなぜかという、今までの行革は、予算を抑える方向に気持ちが行きがちで、事業を減らさずに、1つ1つの予算を減らして、何とか収支均衡に持って行って、よかったというやり方が多かった。

でも、そのやり方は今後通用しなくて、本当にこの事業は必要なのか、本当に必要な事業なら、充実させるべきものは、もっと充実させた方がいいと思うし、なくても大丈夫ならやめた方がいい、その辺の判断をこれからしっかりとしていかなければいけないと思っております。

そういった中で行財政審議会の方で大きな課題という、スケートセンターの話もあったわけですが、これについては後でまた私から、今日までどんなことをやってきたか、お話をさせていただきたいと思っておるところであります。

いずれにいたしましても、やはり今までのやり方を見直すことが、今一番求められているところだと思っておりますので、いいと思えばそのままやればいいし、変えるべきは変えていく、そこを恐れてはいけないのだと思います。

ですから、例えばこの会議の進め方もそうです。本当にこの会議の進め方がいいのかということも言っていたいただいてもいいと思っております。

例えば今日ここに集まりの皆さんの半分くらいは、初めてなので、この後説明がある、審議会の詳細等の説明を受ける価値はあると思うんですけども、従来からいるメンバーからすると、これまでに聞いた話ですので、事前に新しい人だけレクをやって、それで集まってもらいやり方だっていると思うし、いろんなことが考えられるわけですよ。そうやって時間と人を張り付ける時間をできるだけ減らすことによって、人件費も抑えられてくる。

こういうものが積み重なっていくと、いろいろと出てくるのではないかと思っておりますので、どうか忌憚のない意見を出していただければありがたいなと思っております。

いずれにいたしましてもこの後、基本的な説明があろうかと思いますが、そこもぜひ聞いてやっていただいて、そのあとご意見を賜ればと思っておりますので、よろしくお願ひ申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきたいというふうに思います。本日はどうぞよろしくお願ひをいたします。

4 自己紹介

財政課長

次第4、自己紹介です。新しく委員になられた方もいらっしゃいますので、委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。お配りをしている名簿順に従いましてそれぞれ自己紹介をお願いします。

(名簿順に委員自己紹介)

財政課長

皆さんありがとうございます。市側の出席者は、お配りしています名簿にありますとおり市長をはじめ、すべての部長が出席しています。

市側の出席者から自己紹介をさせていただきますが、全員自己紹介となりますと時間の都合もありますので、副市長と、*印がついている事務局職員のみを紹介とさせていただきますのでよろしくお願いします。

(市側自己紹介)

5 正副会長選任

財政課長

次第5、正副会長を選任ということで、行財政審議会条例では、審議会に

委員	<p>正副会長各1名を置き、委員が互選をすると定められております。</p> <p>正副会長の選任につきまして、立候補ですとかご意見等ございましたら、お願いをしたいと思います。何かご意見等ございましたら挙手をいただければと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>正副会長はあまり関係ないかもしれないんですが、私は積極的に、歳入を増やしたいという方向性で考えている。</p> <p>今期の委員の中には歳入を増やす可能性のある市の取組に係る委員さんがいる。そうした場合、歳入を増やすダイレクトな話を伺う意味で有意義だと思いつつ同時に、市民への透明性という部分で市の取組にも関わる都合上どういう立場で話をしているのかを、明確にした方がいいのではないかと感じている。</p> <p>例えば私は3号委員なので、市民の代表として話をするときもあるんですが、発言した内容が、利益相反になるのではないかと市民に思われぬように、そういう枠組みをしっかりと事前議論が始まる前に、作っておいた方がいいのではないかと名簿を見て感じました。その辺の枠組みを事前に作ればいいと思っているんですがいかがでしょうか。</p>
財政課長	<p>要は、委員さんの発言で、市側が忖度じゃないですけど、その結果、会社に不利益が及んではいけないとか、そういう意味ですか。</p>
委員	<p>批判的な視点ではなくて、今、委員さんがどういう視点でお話しているのを、わかるようにしておいた方がいいかなっていうこと。</p> <p>例えば全然違うのでいくと、温泉施設の方がここにいらっしやったら、例えば値上げのことについて聞かれたときにどっち側で、委員としてお話しているのか、運営している立場なのか、おそらく運営している方が、ダイレクトにお話いただいた方がわかりやすいときもあるかもしれないし早いかもしれないんですけど。</p> <p>そのときに、委員さんがどの立場でお話しているのか透明性が、わかりづらくなってしまって、委員さんがやっていることの取組自体を阻害してしまったり、茅野市の取組に対する透明性とかそういったものに影響するのはよくないと思っていて、そこの切り分けが何かできるような、この先にちょっと議論が進んでいく上でどうなっていくかわからないんですけど、全然触れないかもしれないですし、でも私はちょっとそこら辺の恐れがあるなって思っています。</p> <p>正副会長を決める前にやっといた方がいいのかなってちょっと思った次第です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。ごもっともなご心配だと思います。</p> <p>ただ、当該企業に限らず、例えば農協さんや商工会議所も補助金出してお</p>

りますし、大学はかなりのお金が出ております。

我々が今ここで求めるのは、経済人としての視点がやっぱり欲しい。行政も経営ですけれども、今まで行政は経営的な視点が、どうしても薄い部分があって、そこを重視していきたいと思っています。

ですから、例えば温泉には、平均して1つの温泉に2,000万円ぐらいずつ、毎年運営費を出しています。そして、市は出したお金の範囲でやれば黒字と言ってきているわけです。

でも本来、民間的に考えたら、全然黒字じゃないですよ。その発表の仕方が、行政独自の発表の仕方をしていたので、市民の皆さんも、みんな黒字だと思っていたわけです。

けれども、ほぼすべての公共施設は、市がお金を出していて、そのことによって維持されているわけですよ。やはり、その部分の視点が行政には欠けていた。

要するに年間の維持費は、必ずすべての公共施設にかかっている、スケートセンターなんか5,000万から6,000万くらいかかっているわけですよ。それは入場料だけではペイできない。温泉も入場料だけでは、全然ペイできていない。これすべて他の施設も同じです。市民館もそうです。

そういうことは皆さん、意外と知らないんですけども、やっぱりそういうことを今一生懸命伝えようとしていて、広報誌だとかに載せたりしています。

しかし、これを見るのが嫌だって人がいっぱいいるんです。あんなこと書くからって、すごく怒られます。けども、これ不都合な真実っていうものをちゃんと見てもらわないと、そういう議論ができないと思っています。

普段は情報を出せ、情報出せて皆言うんですよ。でも、自分があんまり見たくない情報になると、あれは出すなと言っちゃうのが人情で、その中で、やはりここは経営的なセンスを持って、皆さんでしっかりとした意見を出していただくということが、私は重要だと思っています。

どうしても行政は難しく、人情みたいなところを大事にしなきゃいけない部分もあるんですよ。しかし、そこだけでやっている、いいことだからいいことだからと言って、いいことがどんどん増えて二進も三進もいかなかったのが今の状態とっていただければいいと思うんですよ。ですから、人情の議論でいっちゃうと、まずいよねと。

茅野市のパートナーシップのまちづくりは、長年にわたっていいことを積み重ねてきている。それは、どれもいいことだし、どれもあって、悪いものではないけれども、それをある程度整理をしていかなければいけない時期に来ているということ、まずは行財政審議会ですっきりとした意見をいただいて、市の職員が意識を変えていく。市の職員の意識が変わらないと、茅野市民の意識は変わらないと思うんですね。

つまり、まちづくりの構造そのものを変えていこうとしているわけですから、それをやらないと、本当の意味での行財政改革にはならなくて、

	<p>さっき言ったように、ちょっと予算を圧縮してまたちょっと良くなるとまた元へ戻るみたいなことの繰り返しになってくる。</p> <p>今までの行革がそうなんです。一旦やばいと思って行革をやって、それぞれの事業の予算を圧縮かける。圧縮かけたけども、ちょっと良くなるとまた膨らむんです。その繰り返しをやっていたのでは、持続可能性は出てきませんので、経営者の視点というものを大事にしたい。</p> <p>その上でやっぱりさっき言った、いわゆる市民感覚っていうのかな、市民の要望だとか希望もやはり大事なんで、その2つが我々とすれば、求めたいと思っているところになりますので、いろんな企業の経営者の皆さんがたくさんいらっしゃいますんで、そんな視点と、あとはその市民としての視点、両方をお願いをしていければなと思っております。よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>今後、何か思ったら言うかもしれませんけど。</p>
委員	<p>自薦他薦色々あると思いますが、我々はきつくないと思いますんで、他薦じゃどなたかっていう話にもなろうかと思えますけれども、今日初めてお顔を合わせた方もいらっしゃるんで、今回は、事務局の方からある程度、腹案を出していただいた上で、皆さんのご賛同を得るのが、順調な流れに行くんじゃないかなというふうに思えますんで、事務局で腹案をお願いしたいと思えます。</p>
財政課長	<p>ただいま事務局に腹案があるかというご発言がありました。事務局といたしましては、前期からの繋がりですとか、これまでの審議の継続性という観点から、まず、会長には本日欠席をされていますが、前期委員の会長をされていました信州諏訪農業協同組合の小平組合長を、副会長には、茅野商工会議所の矢崎副会頭さんをお願いしたいというように考えております。この案につきましてご意見ございましたらお願いをいたします。</p> <p>(異議なし)</p>
財政課長	<p>異議なしというご発言がありましたが、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。それでは、会長に小平組合長、副会長に矢崎副会頭が選出をされました。よろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは、本日、会長はご欠席ですので、矢崎委員さん、中央の席にご移動をお願いいたします。</p>
副会長	<p>(挨拶して着席)</p>
財政課長	<p>ここからは、副会長に会議の進行をお願いしたいと思いますのでよろしくお願いいいたします。</p>

<p>副会長</p>	<p>6 会議の公開について</p> <p>それでは本日、会長がご欠席でございまして先ほどお話をさせていただきましたようにこれから私が進行させていただきます。</p> <p>まず会議事項に入る前に資料2をご覧くださいと思いますが、会議の公開について事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>財政課長</p>	<p>資料2をご覧ください。茅野市では、各種審議会の会議内容の公開等を進めております。対象となる審議会は、条例で設置をしています、いわゆる市長の附属機関としての審議会で、この行財政審議会も会議の公開の対象となります。</p> <p>会議の内容は原則として公開することとしており、個人情報に関する内容ですとか、議事運営に支障が生じるような場合は、非公開とすることができます。会議を公開とするか、非公開とするかは、それぞれの審議会で決定することとなっておりますので、この行財政審議会を公開するかどうか、皆さんでお話をさせていただいて決めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>副会長</p>	<p>ただいま事務局からお話ありましておりの審議会については、特に発言者の氏名が匿名で出ますので、公開ということによろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p>
<p>副会長</p>	<p>それでは公開ということによろしくをお願いいたします。</p>
<p>財政課長</p>	<p>ありがとうございました。なお、会議録を公開する際には、事前に委員の皆さんにご確認をいただき、それから公開をする形になりますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>副会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、申し忘れましたが、会場におきまして報道各社の撮影、録音がございましてそちらも併せてご了承いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>副会長</p>	<p>7 会議事項</p> <p>(1)茅野市の状況について(資料3)</p> <p>それでは具体的な会議事項に移りたいと思います。まず茅野市の状況についてということで資料3をご覧くださいと思います。</p> <p>こちら事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>財政課長</p>	<p>(事務局が資料3に基づき説明)</p>

副会長	<p>ありがとうございました。ちょっとボリュームが多くて、皆さん1回説明受けただけでは、よくお分かりにならない部分もあるかと思います。まず、行政の言葉で難しい言葉があった。会計年度任用職員とは、要はパートアルバイトさんという意味、臨時の職員さんという意味ですね。</p> <p>ただいまご説明をいただきましたけれども、委員の皆さんからわからない点などはございますか。</p> <p>(以下質疑、意見)</p>
委員	<p>市税が結構増えているということでしたが、市税の内訳のパーセンテージが大まかに分かれば教えてください。</p>
総務部長	<p>本日正確なものを持ち合わせてないですけども、令和8年度予算は92億6,000万円ですが、そのうち42億円が土地家屋に対する市の税金の固定資産です。それから、個人住民税、市民住民の方のいわゆる住民税と言われるものが約30~40億円でございます。それから固定資産税と同様に都市計画税という税を茅野市は課しておりまして、それが約5~6億円ぐらい。あとは法人税のうち、法人住民税というものも納めていただいておりますが、これが予算上では6億円半ばぐらいだったかと思えます。あと、たばこを吸う方が茅野市で購買をしたときに税金を納めていただくたばこ税、これが約3億5,000万円。もう1つ、市内の温浴施設をご利用した方に1回150円納めていただく入湯税、これが7,000万円ほど。</p> <p>大まかでございますがそんな内訳でございます。</p>
委員	<p>あと、7ページで衛生費の伸びは諏訪中央病院組合負担金の増加によるものということで、公立病院の経営が非常に厳しいということでしたが、要は病院を運営するにあたって、それに必要な人件費なり資材費が保険等々で入ってくるものと3割負担で入ってくるものではもう賄えないと考えればいいのでしょうか。病院の経営が厳しいというところがわからなくて教えて欲しいです。</p>
市長	<p>基本的に保険点数では賄えないです。今年点数の見直しがありますが、物価高騰などに全然追いついていないです。</p> <p>特に地域医療を主にやっている病院、例えば諏訪管内でいくと、日赤は中核病院なので、いわゆる公的病院という分類になりますけれども、様々な高度医療などの補助金が入っているにも関わらず、そこも経営が厳しい。要は、公立だけではなくて日本の病院の7割~8割がみんな赤字です。</p> <p>それは、物価高騰と人件費です。中央病院の場合は、準公務員になりますので、人事院勧告に基づいて市の職員に準ずる形で人件費を上げていますけれども、どこも人件費を上げないと、特に看護師さんとか、お医者さんとか医療スタッフが集まらないので、人件費をみんな上げています。</p>

	<p>昨年度の場合は人件費と物価高騰の部分で、非常に財政を圧迫した。点数の見直しがその人件費や物価高騰などの実情に合っていない。</p> <p>いろんなところから得た情報だと、今年、そこを補填することを政府は考えているようですので、どのぐらい財政的支援が得られるかはまだ未確定ですけれども、何らかの手を講ずるとい話は耳にしているところで、そこに期待をしている状況です。</p>
委員	<p>この点数は、医療を診療したときに何点という診断されて、それに対してお金払うと思うんですけど。その点数と実際にかかっている費用が見合っていないということは、それは制度疲労で市レベルではどうしようもないことなんですかね。</p>
副市長	<p>公立病院の場合は、民間の病院と違って、診療報酬の低い人たちも受け入れなければならない、諏訪中央病院の場合は救急も日赤に劣らないくらいの件数を受けている。そのために医師が夜間も24時間待機して救急を受けている状態です。日赤の場合には、市長が言ったように高度救急の部分で、報酬点数が高くなりますが、中央病院の場合には例えば、高齢者で具合が悪くなって救急で来るなど、あんまり点数が出ない部分も引き受けているので、余計に経営的に苦しい。</p> <p>それは公立病院の使命ですけれども、中央病院の先生方も、当然その人達も引き受けるという使命感を持ってやっていますが、どうしても経営的に厳しい部分が出てくる。</p>
委員	<p>基金が多いところは基本的にはこれまでに合併を経験した市町村だとお見受けしています。岡谷、諏訪、茅野が合併したとすれば150億円ぐらいになると思いますし、他の2町1村合わせれば150億円以上になるんじゃないかと思っていて、例えば6市町村合併したときに、どれだけ基金があって1人当たりの基金がどれくらいになって順位で見るとどれくらいかみたいなシミュレーションをされたことがあれば教えてください。</p>
副市長	<p>合併している市町村は、合併特例債という借金を発行することができました。それはほとんど返済が国から来る形になっていたもので、市税を基金にためることができました。</p> <p>20年前の平成の大合併のときの合併特例債の総額を、はっきり覚えていないですけど600億円とか700億円とか諏訪地域でそのぐらいは全体で合併特例債を発行できたはずですよ。</p> <p>そうするとうまく使えば基金が、合併市で500億円とか600億円とか貯まっていた感じになると思います。</p>
市長	<p>例えば県内19市で見ると、合併したところは基金がある。それはなぜかと</p>

	<p>いうと、今言ったように合併特例債を使えたからです。だから、一方で貯金ができた。</p> <p>この6市町村は、この20年間それができなかったのも、その差がやっぱり出てきています。</p> <p>ですから、岡谷とか諏訪の方が、まだちょっと多く貯金持っているんだけど、長野県全体で見れば、あまりいいところはない状況が諏訪地域の特徴になっています。</p> <p>政府は、当時平成の大合併をしなかったところは、しなくても大丈夫なんですよ、だからこれ以上の支援はしませんというのは、実は方針として出しています。</p> <p>ですから、我々とする、合併をしない形を選択したわけですから、その中でできるだけ6市町村が、一体でできるものを抽出して、みんなで力を合わせてやれるものを作っていくことを今やろうとして、やっとそのテーブルが、昨年できたという状態です。</p>
副会長	<p>はい、ありがとうございます。他にご質問ご意見お持ちの委員さんいらっしゃいますでしょうか。</p>
委員	<p>茅野市の人口の推移はどこかにありますか。過去から今に比べてどれくらいという推移はあるか。</p> <p>どれくらい減っているのか。それに伴って個人市民税がどれくらい減っているのかとか、そういうのが分析としてわかるとありがたいですけども。</p>
財政課長	<p>今日、お示しできるものを持ち合わせておりませんので、また次回お出しをしますが、国勢調査のベースでいきますと、茅野市の人口のピークが平成17年の5万7,000人がピークです。そこから減ってきてまして、直近の令和2年の国勢調査で5万5,300人ぐらいという状況です。</p> <p>ただその減り方も、他の市町村に比べると大分緩やかです。湖周の方はもっとかなりの勢いで減っています。</p>
委員	<p>人口の減少に伴ってどれくらい個人市民税が減っているのか、或いは、先ほど市民税の内訳を教えてくださいましたけども、法人市民税が増えているのか減っているのか、或いは固定資産税は増えているのか減っているのか、それはなぜかという細かな分析があると、案も立てられるんじゃないかと思えます。</p> <p>あともう1つ、基金の件について、昔に貯金ができた理由は何なんですか。例えば私のお客さんでも、昔はめちゃくちゃ儲かっていて現預金はたっぷりある会社だけど、ここ直近10年間は、毎年赤字垂れ流しているという会社もある。昔儲かったのは確かに理由があるんですよ。これは日本人の消費傾向があって、その傾向が変わってきた。昔は本当にたっぷり儲かって、現</p>

<p>財政課長</p>	<p>預金も十分あるんだけど、その現預金だけであと4、50年は十分持つんだけど、いつもずっと赤字垂れ流しているというような会社と似ているのかなという気がするんですけど。</p> <p>茅野市でこの貯金があったのは、昔何があったからこの貯金があったのかっていうのを教えていただければありがたいです。</p> <p>まず基金を増やしていく要因ですけども、地方財政法という法律の中は、剰余金といういわゆる繰越金の半分は基金に積むように努めることが定められています。</p> <p>例えば令和6年度の決算で、令和7年度に向けて余ったお金、繰越金が10億円だった場合、その半分の5億円は基金に積むように努めてくださいということになります。しかし、実際茅野市ではそれができていない現状です。</p> <p>昔は、例えば駅前の茅野市民館を建てるために、計画的に基金を積み立てて、20億円ぐらいためた。そうやって計画的に積み増しをしてきた時期もあります。基本的にこの財政調整基金というのは、財政的に余裕があるときに計画的に少しずつ積んでいくってというような形をとってきています。</p>
<p>委員</p>	<p>収入がなきゃ積めない。その収入はどこから来たのか。</p>
<p>財政課長</p>	<p>例えば、市税を当初予算では80億円で見積もっていましたが、決算だと85億円だった。その5億円が予算上は繰越金として余ってきます。それを次の年に基金に積むとかできればそういったこともやってきました。</p>
<p>委員</p>	<p>そういう意味ではなく、そもそも儲からなければ基金に積む原資がないということを申し上げているわけなんです。</p>
<p>市長</p>	<p>収入は減っていません。税収は上がっています。</p>
<p>財政課長</p>	<p>税収は増えています。交付税も増えています。</p>
<p>委員</p>	<p>収入は減ってないけれど支出が増えているから、今は赤字傾向にあるという話ですね。</p>
<p>市長</p>	<p>固定費が増えているんです。</p>
<p>委員</p>	<p>その辺をまず重点的に考えなきゃいけないかなということが見えてきますよね。</p>
<p>委員</p>	<p>主要一般財源で市税が主たる財源ということはわかったが、固定資産税がすごく大きいと思っていて、固定資産税の内訳は新たな固定資産が生まれた</p>

	<p>ときと評価額よっての収入の振り分けになると思うんですけど、どういう比率なのか。</p> <p>何でこれを聞いているかという、固定資産の評価額が上がって増えているのであれば、例えば事業誘致をして、運用に回すことができるかなと思っていて、新たな固定資産が増えることによって、課税が増え、税収が増えているなら、新規事業を活性化することで、そういうニーズが多いから、それを後押しするような形で、増やせばいいと思っている。</p> <p>そういう視点において、固定資産税が半分弱あるので、その比率をもう少し細かく教えていただけたら参考になるのかなと思った。</p> <p>比率は答えが難しいが、委員さんがおっしゃるとおり、土地建物が茅野市に増えれば、固定資産税自体はその分入ってくる。</p> <p>ただ、評価額は、ずっと固定ではなく、定期的に見直しをしています。見直しをする世の中の情勢としたら、茅野市は地価が概ね下がっている地域に該当しています。</p> <p>茅野市の中でも実際に上がっている地点もありますが、全体的に言うとながる傾向にあるので、今のままですと、どんどん下がっていきまいかねないので、おっしゃるとおり、例えば企業誘致をすることなどによって、この地域に倉庫なり工場なりを構えていただくことによって固定した税が入ってきやすくなるというのがございます。</p> <p>ただ、そのためには、道路が通っているだとか、水の確保が十分かとか、危険地域に指定されていないかなど、状況によって様々な問題をクリアしなければいけない。</p> <p>今、市役所の中の様々な部を挙げて、そういう土地の確保をどのようにすればいいかを具体的に、進めているところではございます。</p> <p>土地家屋だけのことしか私説明しませんでしたけども、償却資産など、企業が、設備に投下しているものについても課税するというものもございませす。固定資産税の内訳について今手元にございませのでまた改めてお示しできればと思います。</p>
総務部長	<p>あとは、先ほどの市税で、個人市民税と法人税があるんですけど、多いのか少ないのか基準がわからない。個人が30億円で法人が6億円っていうのは、この5万人ぐらいの都市と、総体的に比べてどうですか。</p> <p>例えば、もう少し本当は法人税が高い方がいいとかそういった事実とゴールとしてあるべき姿を一般論で構わないが教えてほしい。</p>
副市長	<p>もちろん入ってくるといいわけですけど、法人税に頼っているところは企業の景気によって税収の波があります。</p> <p>景気がいいとたくさん税収が入ってきますが、次の年に景気が悪くなると翌年清算して、税金を返すこともあるため、財政運営が不安定になってしま</p>

	<p>います。</p> <p>茅野市の場合は、固定資産税が40何億円で推移し、家屋や土地とか、固定的なもので収入があるため、ある程度安定的な財政運営ができます。</p> <p>それから、先ほどどうして基金がためられたかという質問がありました。令和2年以降、国はコロナの交付金をはじめとして地方に対して、様々な財政支援をしてきました。</p> <p>その部分を既存の事業を組み合わせ、国の交付金をうまく使うことによって市に入ってきた税収を基金に積む形で、4年間結構工夫して基金を増やしてきました。</p> <p>一時期に市民館を建てるために矢崎市長が90億円ぐらい貯めたときがあったけれども、茅野市は財政調整基金と減債基金で大体40億～50億円ぐらいのところで大体変化はないです。</p> <p>あと税収が減っているかというお話がありましたけど、平成17年のときに小泉内閣が三位一体の改革やったとき、財源移譲して、そのとき茅野市は税収が95億ぐらいありました。</p> <p>そのあと様々な不景気やリーマンショックなどによって、10億円近く落ちたんですけども、景気の回復と所得の伸びと、人口も減ってきているといってもそれほど減ってきてなかったために、税収は90億円台のところを、令和7年度のケースだと95億円ぐらいまで回復しており、平成17年ぐらいの人口が一番多かった5万7,099人の頃に回復してきている現状です。</p>
委員	<p>人口動態が増えて、税収が増えて、逆にかかる費用も増えている状態を、打破するために、市としての取組として何を一番注力してやっているのか。</p> <p>歳入を圧倒的に増やさないといけない。もっと物価高になって歳出が増えていく傾向は逃れられない中で、どうやって歳入を増やすのか今市としてお持ちの解っているのはありますか。</p>
市長	<p>我々は、この行革のソフトランディングを目指しています。ハードランディングでやろうとすれば、例えば温泉施設全部なくしますとか、そういうこともできる。茅野市は55,000人クラスの自治体とすると、公共施設が多い。</p> <p>これはちょっと嫌な思いをして聞く人いるかもしれませんが、昔の1町8ヶ村が合併して、茅野市ができたんですけども、正直合併の効果があまり出てない。60年経とうとしているのに、昔の村々に、全部同じように、温泉やコミュニティセンターがなきゃいけないとか、全部同じように均等にやってきた。これはいいことなんです。</p> <p>公共施設も、ここは図書館をここは博物館をと、全ての村々に均等にやってくるという市政運営をしてきた。その結果として、公共施設は非常に多い自治体となっています。</p> <p>今、学校の問題を議論していただいております。これは財政の問題というより子どもの数の方が、重要なポイントなんです。</p>

お子さんの数はどんどん減っているけれど、昔の各村に全部学校があります。それは、全部調査しましたが、ただ建物を維持することだけで考えて、手を入れていけば、あと10年や15年建物自体は何とかできます。

けれども、お子さんが、どんどん減っていて、1学年10人以下のところが出てきていて、5年後には、もう1校50~60人のところが、現実として見えてきている。本当にそれでいいのかというところをまず議論をしていただきたいということをお願いをしている。

しかし、どうしても、世の中的にはお金がないからなくすんだろうという話になってしまう。

学校残すならいくらでも残します。学校という名前の建物をいくらでも残してあげてもいいですよって言いたいぐらいですけども、私は子どものためを考えて本当にそれでいいのかをまず問いたい。

それがいいってするのであれば、残すことは可能です。建物自体は。

けれど、教員は市ではなく県から配置されていますから、基準によって複式学級になってきます。

そうすると、今度は空き教室がいっぱい出てくるので、コミュニティセンターを入れたり、色々と考えられる。だから、そういうことをこれから進めようとしているわけです。公共施設を整理するってそういう話です。

お金ないので、すぐに止めるというのは、よくないので、今から10年程度かけながら、ゆっくりとそっちへ着地していきたいということで、そんなお話を今始めているんですね。

学校全部建て替えるとしてもできない。全部きれいにするには10年や15年かかる。温泉も同じことで、あと5年後、10年後、どれだけの人が利用しているか考えたときに、人口が減って、高齢者人口も減ってくる。そうすると、利用者もおのずと減ってくる。

そうしたときに、どこを残せばいいのかを、やっぱり議論してかなきゃいけない。そういうことがある程度頭の中にないと、財政の平準化はできない。

今年何を作ります来年これをやりますということを均等に配置していかないと、一気に大きいものを作るみたいになると、大変なんで、できるだけこれを均等にしていきたいということで今、その作業をやっているということになります。

だから公共施設を、ある程度整理していくということをやっています。

もう1つは、今言われているように税収を上げていくということです。税収を上げていくということは例えば、工場が進出できるような土地を、プロジェクトチームを作って、茅野市中の場所を検討させています。そこには色々課題もありますが、企業誘致をするということも必要ですし、それから企業を育てるということ、それから企業が逃げていかないようにすること。やっぱりこれもきちんとやっていかないと、そういうことをやって税収をできるだけ確保すると、それから就農も一生懸命やっています。今

就農率すごく高くなっています。

そうしたありとあらゆることをやって、財政を立て直そうとしているんですけども、そうは言っても、やっぱり一気に進めると、市内が荒れてしまいますので、できるだけ、少しずつ少しずつやっていくということを今考えています。

そのためには、こういった情報を出して、きちんとお伝えをしながらも、でも、あまり一気にやるというハードランディングではなくて、10年くらい先を見据えてソフトランディングで進めるために、今、いろんなことを着手し始めているということも、ぜひご理解をいただきたいと思います。

そういうふうに説明しても、話しが大きくなって、明日にでもなくなるとみんな思っちゃうんですよ。

今度の市長はお風呂なくすし値上げもするし、ろくなもんじゃなみたいなの話になってしまう。でも、それは誰のためかという、僕ら世代のためでも何でもなくて、いずれこのまちを背負っていく、ここにいる40代50代の人たちに、できるだけいい状態にして、バトンタッチをしてあげたい。

だから、今ここにいる職員たちは苦勞している。今の部長や課長は変な話、ぎりぎりセーフで逃げ切れる職員。でも若い職員が苦勞しちゃいけないんで、今係長くらいの職員が課長部長になったときに、できるだけ大変しないようにと思って、頑張っているという状況だということで、方向性は大体わかっていただけますかね。

副市長

補足させてください。

事業の見直しで例えば、福祉では、かつては個人にお金を配る給付の世界がありました。けどこれは社会で支えていくシステムにしなければいけないということで、介護保険制度ができ、障害を持った方も障害者総合支援法の中で支援する形で、国県も含めた制度は整えられてきました。

しかし、そういう制度が整えられてきたにもかかわらず、市町村によってはお金を配る部分を残してきました。それは首長さんにとっては選挙のことを考えたら、現金で配っている方がいいというところがあるんだけど、やはり社会を支えていく仕組みとして見直してきているのに、それが残るのはおかしい。

令和7年度に茅野市では福祉医療制度の見直しをさせていただいて、反発もあったんだけどやっぱりもう制度として整えられている中で、そういった現金を給付するというものは見直しをさせていただきたいってことでやりました。

市長にとっては痛いかもしれないけども、それはやっていかないと茅野市にとって持続的な財政にならないということで、制度が変わってきたにもかかわらず残っているものをしっかり見直してかなきゃいけないかと思っています。

委員	<p>まず1点感想からですけど、添付されている資料も含めて、過去の経過も含めてこれだけの情報を開示されて、かなりオープンに共有化をしていただいていると私は受けとめました。</p> <p>他の市町村が、どの程度情報開示しているかは研究してないんですけど、そういう意味では、こういう場を設けていただく価値がより高まるのではないかなと少し期待を持っております。</p> <p>1つ今後のお願いでもあるんですが、冒頭市長が、過去についても一旦ゼロベースで構築し直すんだというお話しもしていただいたんですが、一方では2年任期で、審議会はかなり詳細な議論もされていることもあるので、やはり過去の議論を踏まえて、どういうものがどこに反映されていて、課題がどう積み残っていて、その上でこう積み上げるっていうような、そういうところが、私も初めてなので、何かまた議論がゼロベースになることもいいのかもしれないですが、せっかくこれだけ大勢のメンバー集めていただいているんで、その辺のわかりやすさもぜひお願いしたいなと思っております。</p> <p>あと、ふるさと納税の金額が、これだけ増えましたとあるんですけど、これはネットの金額と理解していいんでしょうか。</p>
市長	<p>ネットではなく、これはいわゆる総額です。</p>
委員	<p>稼いだ分ということか。</p>
市長	<p>稼いだ分ではなく、税収で入ってきた分。返礼品の額だとか、市民が他にふるさと納税した分を引いていない額。</p>
総務部長	<p>ふるさと納税の仕組みをまた説明する機会があればと思いますけども、約7億円入ったとしたら、約半分ぐらいが事務的な経費。返礼品であるとか、人件費とか、もろもろのお金に充てざるを得ません。</p> <p>半分は残るんですけど、一方で茅野市の人が、他のまちのふるさと納税に納税するとそれだけ流出してしまいます。</p> <p>おそらく7年度はその流出額1億5000万円ぐらいは流出しているというふうに思いますが、ちょっと詳細言うと、その流出した金額の75%は翌年度に交付税として入ってくるというのもございますが、実質的にはそうしますと、2億円ちょっとの実入りという仕組みになります。</p>
財政課長	<p>あと、今まで、この審議会の中でどういった議論がされてきてどういう結果が出ているのかということにつきましては、この後の会議事項の(2)のところでご説明を差し上げますのでよろしく申し上げます。</p>
副会長	<p>ありがとうございます。他、委員さんからご質問ご意見がなければ次の項目に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。</p>

副会長	<p>(2) 茅野市行財政審議会について(資料4)</p> <p>① 審議会の役割(資料5)</p> <p>② 行財政に係る計画(資料6、7)</p> <p>それでは茅野市の行政行財政審議会についてということで事務局からご説明をお願いいたします。資料の4をご覧いただきたいというふうに思います。</p>
行革推進係長	<p>(事務局が資料4～資料7に基づき説明)</p>
副会長	<p>ありがとうございました。ただいま資料4の審議会の役割それから行財政に係る計画のご説明をいただきましたけども、委員の皆さんからご質問ご意見はございますか。</p>
委員	<p>(以下質疑、意見)</p> <p>公共施設の再編で、10地区単位での施設維持は非常にコストかかるという話だったと思うんですけども、今10地区ありますけれども、市の方で行政区自体の見直しみたいなことまで踏み込んで検討していることはありますか。</p> <p>例えば10地区を3地区にするとか、4地区にするとか、そういった行政区の合併みたいなイメージのところまで検討されたことがあれば、教えてください。</p>
副市長	<p>先ほど市長が言いましたように1町8ヶ村、今中大塩が入って10地区ですけど、そういった過去の経過から地区の統合といった話しにはなっていませんが、公共施設をどう配置するかということは、議論をされてきました。</p> <p>平成6年までの原田市政は、合併前の地区を基本とした10地区、当時は9地区に対して、公共施設を満遍なく配置していくという考え方があって、それは右肩上がりの経済状況の中でそういった考え方がありました。</p> <p>平成7年から矢崎市長が、総合計画を作ったときには中学校区単位で公共施設を再編していくという考え方をしました。それは10地区に満遍なくではなくて、これからはある程度集約をかけた公共施設でという議論がされました。</p> <p>しかし、平成の大合併が破綻した後に、茅野市が自立の道を歩む方向になっていく中で、地区コミュニティの充実が柳平市政の中で打ち出されてきました。その中では自立だと、生活圏域、区や行政区、地区の部分を大事にしたいということで地区コミュニティの充実を打ち出したために、その10地区の部分をもう1回重視するような流れになり、今井市政に変わりました。</p> <p>今井市政の中ではやはり、公共施設をもう1回見直す中で、やっぱり最適な配置の中でやっていく必要があるのではないかということで公共施設の再</p>

<p>委員</p>	<p>編見直しと、行財政改革を進めているというのが、この40数年にわたる経過になると思います。</p> <p>今の中では10地区ごとの繁栄ということよりも、茅野市全体で見たときに最もスマートな形を検討されているというイメージですかね。</p>
<p>副市長</p>	<p>矢崎市政のときに中学校区単位の4エリアでと言ったのは、様々な行政サービスが、どの人数を対象としてどういったエリアでやればいいのかというような考え方があるわけです。</p> <p>福祉だと他を参考にすると1万人から2万人くらいの単位の中で、福祉コミュニティを作っていくサービスが最適だろうということが、平成7、8年くらいの議論でした。</p> <p>そういった中では、5万6,000人の人口を4分割することによって福祉コミュニティを作っていくというのが最適ではないかという考え方があったわけです。</p> <p>それから先ほど申し上げましたように、合併が破綻した後は、より細かい単位での区・自治会、地区を単位としたところが入ってくることによって、市を成り立たせようみたいな考え方になったわけなんですけれども、そこら辺をもう1回今再検討していることになるかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>行政も試行錯誤みたいなどころがあるんだと思うんですけども、今現在は地区の運営協議会が地区単位でいろいろやってくれているんですけども、そうこうしているうちに、区・自治会が、下手すると消滅してしまうところも出てきている。</p> <p>やはり、この茅野市制の基本は区・自治会だと思う。そこが二進も三進もいなくなったら地区もへったくれもないっていう話になってくるので、やはり区・自治会への支援というのをしっかりと考えていかなきゃいけないし、場合によっては近い将来には、区の統合も実際あり得る。</p> <p>それを何とか先行してちょっと実証的にやっているという言い方をすると、ちょっと語弊があるけれども、消防団がまさに、そういう形です。</p> <p>消防団の再編をしました。その中で、部の統合をしたところもありますし、それは将来的にそうしていかないと成り立たなくなるだろうと予測できるので、今、そういったことは始めています。</p> <p>ですから、ある意味消防団の再編がパイロット的な取組になるのではないかと期待もしているんですけども、やはり区・自治会をしっかり存続させていくことが、基本中の基本にあって、そのためにはどうすればいいのかということを考えていかなきゃいけない。ですから地区、地区とやっている、区・自治会がおろそかになってしまうので、区・自治会にきちんとフォーカスしていくためには、今まで市民活動と公民館活動を分けてやっていたんですけども、やっぱりこれ一体的なものにしていかないといけないよねという</p>

<p>委員</p>	<p>ことで今年から組織を変えたということで、そこにも取り組み始めているということになってきています。</p> <p>昨年区長をやっていました。私たちの区は、区に入っているのは340世帯で、区にいると思われる世帯の数が600～700世帯で約半数しか入っていないような状況です。</p> <p>それが区を代表している組織なのかという話になってくるところもあります。100%加入の区もあることは承知しているんですが、この先どうなっていくのか。昨年私たちは回覧版のデジタル化とか、防災方面についても、アプリを利用して、何とか、紙資源を減らすとか、この先の市民の負担軽減みたいな事をやり始めたところでもあります。</p> <p>こういう動きは確実に加速化してくるところもありますので、なるべく早めに市としても、手を挙げたところには、手を出しやすい環境にしていだくというような流れが、ぜひ欲しいところではありますのでお願いしたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>基本的にはやるといったところを応援する姿勢で茅野市はいます。</p> <p>例えば消防の再編も、反対をしていた分団と、すぐにやりたい分団と両方あった。それは、人数の問題だとか、地域特性だとか課題があった。</p> <p>ただ、10分団すべてが納得するのを待っていたら、いつになるかわかんないわけです。</p> <p>だから、やるというところはやってくれと、そうすれば、積載車も全部市で面倒見ますという形にしたわけですよ。それを、初年度に、2分団がやって、それから結局3年でできた。当てずっぽうで3年でやるって言ったら3年でできちゃったんです。</p> <p>それはやっぱり真剣にみんなが考えてくれて、結果そうなった。</p> <p>だから、区・自治会もやりたいというところを応援するつもりでいますし、さっき言うように、民間企業であろうが何であろうが、やる気のあるところを応援する、口を開けて待っているところは応援する気はないです。そういう姿勢でやらせていただいております。</p>
<p>副会長</p>	<p>よろしいですか。他にご質問ご意見がないようでしたら、会議開始からちょっと2時間が経ちましたので、もし委員さんがよろしければ、5分ほど休憩してもいいかなと思いますけどいかがでしょう。それでは5分ほどちょっと休憩をさせていただいて、次の項目移りたいと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>(5分休憩)</p>

副会長	<p>③ 前期審議会の審議概要(資料8)</p> <p>④ 今期審議会の進め方</p> <p>それでは再開いたします。大分時間が押してきましたので、続いて事務局から、3と4についてご説明をお願いいたします。</p>
行革推進係長	<p>(事務局が資料4及び資料7に基づき説明)</p>
副会長	<p>ありがとうございました。ただいま説明につきまして特にご質問、ご意見ございますか。</p>
委員	<p>(以下質疑、意見)</p> <p>資料7に31の具体的な対策があります。あと資料4に令和7年度上半期までの実績全31項目のうち15項目が取組完了となっております。</p> <p>これは資料7の31項目のうち15項目終わったという意味だと思うんですが、数えると15項目はないです。</p> <p>どれが終わっているのかということが1つ。</p> <p>それから、この審議会でやるのは、この31のこの具体策を、この審議会で提案をするのか、それとも役所で作った具体案なのか、それとも去年の審議会でこういうことが、提案されたのかその辺のところちょっと教えていただきたいんですけど。</p>
行革推進係長	<p>まず優先改革事項の資料7に掲げてある項目が31項目ございまして、この中の15項目が終わっております。</p> <p>そちらについては、また次回の行財政審議会で、取組完了項目と残っている項目の説明、令和年7年度の進捗状況をご報告させていただきたいと思っております。</p> <p>またこちらの計画については、前々期の審議会のときに、財政状況が悪化をしたという中で、具体的な改革をした方がいいんじゃないかということで、審議会の方からご提案をいただいて、事業の見直しをする中で、こちらの31項目を、市で決めた項目になっております。</p>
委員	<p>この審議会の中で具体的項目を出したわけじゃないんですね。</p>
行革推進係長	<p>そうです。</p>
副会長	<p>(3) その他</p> <p>①スケートセンターの検討状況について(資料9)</p> <p>よろしければ次に進めたいと思いますけどもよろしいでしょうか。それで</p>

<p>市長</p>	<p>は項目その他ということで、まずスケートセンターの検討状況についてご説明をお願いいたします。</p> <p>スケートセンターについては、行財政審議会に、審議をお願いして、原則廃止という答申がなされました。</p> <p>委員の方々も本当に苦渋の決断でこうしたご判断をいただいたと思っておりますが、その際、付帯事項がいくつかございましたので、その付帯意見について1つ1つ我々としては検証し、その上で、結論を出していこうということで、今日までちょっと時間かかってしまいましたが進んできたところです。</p> <p>まず資料の、①～③については書いてあるとおりとなります。</p> <p>④以降の説明をしていきたいと思えます。起債に頼らない資金調達ですが、当時の状況から考えますと、まず、スポーツ公園は、都市公園の中の施設のため、長寿命化計画というものを、国に提出をすると、社会資本整備総合交付金を受けられることとなります。</p> <p>これは計画を策定し、国へ提出しましたので、基本的に2分の1は、国から交付が受けられる体制は整えたということになります。</p> <p>その上で、国会議員のところへ行って、交付申請をした場合は、満額回答をしていただきたいということで、一応そのようにご尽力いただきたいということをお願いをして参りました。</p> <p>それと今度は県といろいろお話をさせていただきました。</p> <p>当然、県営化や維持管理の費用もなかなか難しいということですが、改修工事等については、普通は国の補助金と一緒に使うということは難しいんですけれども、一緒に使ってもいいという補助金を作ってくれそうな雰囲気になつています。</p> <p>現状では、ゼロ回答にはならないだろうということで見えております。</p> <p>そうした動きもあいまって議会の方も動き出しまして今日、県に要望書を持って議会の皆さんが行っておられます。</p> <p>それから、行政といたしましては、まずスケートリンクがある所在地である、岡谷市、それから茅野市、そして小海町、この3自治体で、県に要望に行く段取りを今しておるところでございます。</p> <p>それから、諏訪6市町村の方も話がつきまして、財政的な面はなかなか難しい雰囲気ではありますが、一緒に要望に行くことについては、了解が取れましたので、6市町村長の首長の名前を連ねた要望書を、行ける首長さんで行くところまで話ができているところでございます。</p> <p>それから、民間との協議でありますけれども、地元の手企業とお話をさせていただく中で、維持管理費はやっぱちょっとそんなにはっていうことでありましたが、ご寄附を昨年いただきました。</p> <p>その際に、岡谷市にも出してほしいというお願いを実は私どもからさせていただいて、岡谷市にも同額のご寄附をいただいております。</p>
-----------	--

また、改修工事等する場合は、もう少し協力できるのではないかとというようなお話をいただいているところであります。

それから、そうした協力体制を民間の方とやらなきゃいけないということで、スケート協会の皆さんともお話をさせていただいております。まず茅野市スケート協会に対しましては、大会の開催だけを考えることはやめさせていただきたい、初心者の方が、滑れる時間をもっと増やしてもらいたいということや、運営のやり方を、改善して欲しいということをお願いをさせていただいて、いわゆる競技だけではなくて、普通の方がスケートを楽しめるイベントも作っていただけましたので、そんな方向で協力をいただいております。

また、リンクの幅についても今はすごく広いですが、あそこまでなくてもいいということなので、そうすることによって、製氷する面積が減りますから、多少なりとも経費を浮かせられるのではないかとというようなお話もさせていただいているところであります。

それから、諏訪地域での私岡谷の皆さんともお話をしております、県のスケート連盟の会長、それから岡谷の施設の代表の方と、ずっと話をしております、やっぱりこの問題は、1自治体でどうこうしているのだけど6市町村できちっと考えていかなきゃいけないということで協会の方では、そういう話をさせてもらっていますし、長野の方の皆さんとも実はお話をさせていただいております。

やはりこの施設の維持っていうのを考えるときに、非常にやっぱりこれ将来に向けての心配事は、実際今Mウェブで行っている大会を下支えしている役員の皆さんのほとんどが諏訪か佐久の人たちなんです。長野の人はまだそこまでできる体制が整ってなくて、基本的には諏訪と佐久の人が、全日本クラスの大会の運営をやっています。

ですから、競技をやっていて、国体を出た人たちが、そういった審判員などをやっているという実態がありまして、これは茅野市のリンクがなくなってくると、そういった人たちも配置されなくなるため、長野県のスケート文化を維持するのが難しくなるという話なので、県にも応援してもらいたいということで、県知事、また副知事とお話また担当部長ともお話をさせていただいているところであります。

ですから、県全体としてこの問題を考えていただきたいということは言っております。そういったことを民間の皆様やら、或いは国県とのお話をさせていただく中で、我々としても、今度また実際県の方に要望に行きますので、その辺等も踏まえて、できるだけ早い時期に行財政審議会に、そういった状況をご提示させていただいて、それをもって、本当に申し訳ないわけがありますけれども、もう一度ご判断をいただきたいというふうに考えているところでございます。

ですから、我々とする、こういった形で残すという方向で進めていければというふうに思っているものの、最終的には、そこに行財政審議会でのご判断をいただきたいというふうに思っているところであります。

	<p>その際にはもう少し詳細なお話をさせていただいて、ご判断いただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いをいたします。</p> <p>スケートについての額的なものはまた次のときに詳細をご説明させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。</p>
副会長	<p>ただいま、スケートセンターの検討状況について経過報告をいただきましたけれども、委員の皆さんからご質問はございますか。</p>
委員	<p>(以下質疑、意見)</p> <p>この件について2年間携わってきた自分としては、今の市長の説明だと、もう1回我々が出した、原則廃止だっていうものに対して、再検討してくれってというような諮問が来るということですか。</p>
市長	<p>そういうことです。はい。</p>
委員	<p>我々2年間、真剣に議論して出したものを、状況がこうに変わったからもう1回やってくれってという話で、それは我々が何かお墨付きをつけるような形の話になるんじゃないかと思うんですよね。</p>
市長	<p>諮問不要だとしてここでご判断いただけるのならそれでも構わないと思っておりますが、再度、諮問をする方が良いのではないかというふうに思っているところです。</p>
委員	<p>流れとすると、市長からそういう諮問が再度検討してくれと来たときに、今年度からの行財政審議会の委員が、全員で、それはもうすでに一事不再議で結論は出していることだから、審議しないよという可能性もあっていいわけのことですね。</p>
市長	<p>こちらでそういうご判断をしていただければいいと思っております。</p>
委員	<p>わかりました。会長さんがいないので、私がいろいろ言うことではないですし、本年度からの委員さんのご意見もあると思っておりますので、そこら辺のことも踏まえて、それは会長副会長、以下、新しい委員で判断することだなというように思います。はい。わかりました。</p>
副会長	<p>他にございますでしょうか。</p>
委員	<p>スケートセンターの令和7年度の数字はどうだったのでしょうか。</p>
生涯学習部	<p>生涯学習部長の小池と申します。令和7年度の状況を令和6年度との比較</p>

長	<p>で申し上げたいと思います。</p> <p>まずスケートセンターの利用者数は、令和6年度は31,131人という、3万人を超えました。ただ、令和7年度は28,409人ということで、2,722人の減少でございます。</p> <p>利用料収入は、令和6年度943万6,310円に對しまして、令和7年度は1,076万250円で利用者数は減っているものの、使用料の改定で値上げもありましたので、前年に比べておよそ15%増というような利用収入の増加になりました。</p> <p>営業日数は、ちょっと数えてこなかったですけども、11月29日から2月15日までの営業ですので例年とおりのようなことでございます。</p>
委員	<p>これに対して、補助金を出しているじゃないですか、その推移はどうなっているか。</p>
生涯学習部長	<p>補助金につきましては、4,600万円の指定管理料を出しております。プールの分が600万円は減になっている状況です。</p>
委員	<p>電気料等が上がっている分は、その指定管理料の中で、相手方が全部見てくれるってことでいいのか。</p>
財政課長	<p>スケートセンターの光熱費につきましては基本的に、今言った4,600万円の指定管理料の中で賄われています。</p> <p>当然電気代とか上がっていますけれども、その辺の上昇分も指定管理者の中で、賄っていただいています、電気料が上がったからといってそれにプラスする形で、市から何らかの金額は、スケートセンターに関しては出していません。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
副会長	<p>それではこの件についてご質問がなければ次に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。それでは続いて、学校に係わる地域対話の取組について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
学校教育課長	<p>②学校に係わる地域対話の取組について(資料10)</p> <p>これまでの学校に係わる地域対話の取組について、振り返りということでお話をさせていただくことと、それからこれからの取組についても若干触れさせていただきたいと思います。</p> <p>令和5年になりますが、庁内で未来の学校プロジェクトと称しまして、学校のあり方について検討を始め、令和6年7月に、小中学校それから保育園幼稚園の保護者を対象にアンケート調査を行っております。</p>

先ほど市長からも申し上げましたとおり、児童数が減少していくという状況をとらえておりました、例えば、令和7年度と令和13年度、6年先の将来を見据えますと、茅野市内で約660人の児童が減少するという見込みです。

わかりやすい例えでいいますと、宮川小学校の全児童が茅野市内からいなくなるというイメージになります。

令和6年7月には、アンケート調査をさせていただいた後に、保護者対象の地域対話を、各小学校区で2回ずつ行っております。それから、地域全体の地域対話ということで、その地区の方々、どなたというふうに限定的ことなく、どなたでも参加できるという状況で、地域対話を行っております。

すべての地域対話を合わせますと、28回の地域対話を行っております。

今資料の中段に書いてありますけれども、そこに回数、参加者数、AIアーカイブ視聴ということで、参加できなかった方のために、ライブ映像をYouTubeで配信をさせていただいて、終了後もアーカイブで、視聴できる状態にしておりました。

今現在は、令和7年度に開催した地域対話の中で、皆さんからいただいた学校に対するお考えを、庁内で検討し、茅野市としてどのような方向にしていきたいのかをまとめているところでございます。またその案を皆さんに提示させていただいて、ご意見をちょうだいし、それからアンケート調査も再度実施していきたいと思っています。

その後、どのぐらいの時間を要するかわかりませんが、人口減少が本当に早い勢いでやってきておりますので、そんなに時間をかけることなく、方針を固めていきたいというふうに考えています。

先ほど市長からも話がありました。もちろんその財政に繋がる面はもちろんありますけれども、やはり「行」という意味で、子どもたちのこれからの教育環境のあり方、本当にこれでいいのかというところを、方針をきちんと出していきたいと思っています。

我々学校教育課でも、その年その年の出生数、それから地区ごとの出生数というところもとらえておりますけれども、本当極めて少ない数になっております。

資料にも、1学年10人以下になる学校も出てくる見込みというふうには書いてありますが、10人以下、それも極めて少ないような地区が現れてきているということです。その子たちが、6年後には小学校へ入学していくとなると、我々がこれまで経験をしたことがないような規模の学校が現れてくるというところを非常に危惧しているところでございます。

雑駁でございますけれどもこれまでの取組と今後の取組についてご紹介させていただきました。以上です。

副会長

ありがとうございました。今日も文科省の方で私立大学の閉校を進めるというニュースが流れておりましたけれども、ただいまご説明いただきました内容につきまして委員の皆さんからご質問、ご意見がございましたらお願いい

<p>委員</p>	<p>たします。</p> <p>(以下質疑、意見)</p> <p>より良い教育がどんなものなのかっていうのを、市でも考えていただいているのかなというふうに感じています。</p> <p>人数が多いクラスが良い教育できるのか、少ないクラスの方が、良い教育ができるのかっていうのは、私も教育学の専門でないのでもわかりませんが、この教育の質をどう茅野市として担保していくのかっていうことも1つあるかと思っているのと、あと、この教育移住みたいなことっていうのは私みたいな子育て世代からすると、敏感な人も多くて、魅力ある教育が行われている場所に移住しようという人が首都圏からもいらっしゃいます。</p> <p>そういう意味で成長戦略としての教育を、行政としてはどういうふうにか考えているのか、アイデアというか、検討しているものがあれば教えてください。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>以前も、地域対話の中でもお話をさせていただきましたけども、今具体的に茅野市が独自に取り組める教育ということでありますと、総合の学びの学習の時間というのがあります。年間70時間ぐらい各学校にある時間ですが、そこは特色を持ちながら、今年のテーマ、来年のテーマというふうに、毎年学校ごと考えながら取り組んでいくような内容でございます。</p> <p>一律に茅野市でこのような学びを展開してくださいというものを学校の方をお願いをして展開するのではなくて、学校の中でどういう学びを展開するかという自由度のある学びでございます。</p> <p>それ以外の学びの部分につきましては、文科省の方で、今現在検討しておりますけども学習指導要領に基づく、いわゆる公教育になりますので、これは全国的に展開をされている教育ということで、特段特色のある、教育ができるというものではないです。</p> <p>ですので、今、委員さんからおっしゃられたような、例えば、移住を誘導するようなための教育を考えているかといえば、それは今現在考えておりません。</p>
<p>委員</p>	<p>ご存じと思うんですけど、伊那小学校とか、伝統的に特色のある教育を行っている学校もあって伊那市の中でも、一番エクストリームというか、なかなか経験することできない教育をやっているところもあって、伊那市というのを見ると、いわゆる公教育の中にもばらつきがあるようには感じています。</p> <p>日本全国そのような自治体もあろうかとは思いますが。実際、茅野市出身の友人で、伊那小が良くて伊那に移住した友人もいます。それくらい今子育て世代からすると、自分の子どもたちにどういう教育の場を提供したいかというのはホットなトピックだと思います。</p> <p>なので、茅野市は文科省が定めるところ一般的な公教育と70時間の総合の時</p>

	<p>間しか提供できない。教育的にはあまり魅力のないまちを目指すというのも、1つの方針だと思いますし、怒られない限り、魅力的な質の高い教育と思われることに挑戦していったその結果として人口を増やす、固定資産税が増える住民税が増える。そういったことも成長戦略としてはあろうかというふうには個人的には思いますけれども、現段階ではそこまで踏み込んだ成長戦略としての教育ということは、考えてないというふうに理解してよろしいですかね。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>成長戦略という意味での取組は、これと違って確かにないかもしれませんが、ですが、すべて学校現場では、今最善を尽くして、今いる子どもたちに向き合っております。</p> <p>それはいじめ不登校対策とか、英語の力をつけるだとか、こちらでも考えられるすべてのことは取り組んでおります。</p> <p>これは、決して他市町村に恥じることのない教育を展開しておりますので、そこは自信を持ってやっております。</p>
<p>委員</p>	<p>私の息子も小学校に通っているのですが、学校教育がレベル低いものと全然思っていないんですけれども、市として、これから人口を増やしていかなきゃいけない、維持していくという中で、教育も1つ魅力になる施策ではあろうかと思うので、そういった視点で検討されてはいかがかなという意見でございます。</p>
<p>委員</p>	<p>私は教育に22年携わってみて、長野県の縛り、国の縛り、地方の縛り様々あると思うんですね。</p> <p>茅野市として今最も懸念するのは、人口が減少しているという話だと思うんですね。</p> <p>それを教育の遊びの部分がないのは重々承知していますし、2020年の教育指導要領自体が非常に改革的で素晴らしいものだっていうふうに私は認識しているので、授業に取り入れてやっているんですが、逆に言うとその遊びの部分がしっかりと活用できていない感覚も同時に感じていて、ビジネス的に言うと、茅野が潤うための部分で、一番溝になっている部分じゃないかなと思っているんですね。</p> <p>例えば仮に国家が決めた国の教育指導要領の範囲の中で、十分に茅野の特色を出しながら、指導要領の範囲内で特色のある学校づくりみたいなものは、できる可能性が大きくあるなというふうに思っているんです結論として。</p> <p>ただ、それをやるのに教育委員会のあり方が、1番ビジネスに遠いところにあるのが今一番すごい問題なのかなと思っていて、私は、茅野の資産を将来的に生み出す可能性になるものだと思うのでここに来ているんですけど。</p>

	<p>というのは、市税の中の最も可能性があるものは、先ほど、伺った個人市民税が増える要因になる部分であるので、その要因を一番増やすのに女性が働きやすいことと、子どもさんがいる世代、つまり生産人口が増えることだと思っているんですね。</p> <p>それは第6次茅野市総合計画にも資するものだと思っているので、そうすると教育と、茅野の歳入を増やすというところは切っても切れない関係性にあると思うんです。</p> <p>なので、これを教育委員会の中にとどめることなく、何か面白いイノベティブな学校のあり方っていうものを茅野が出すことはできないのかなっていうことはすごく強く思っています。</p> <p>なかなか難しいのも重々承知しています。22年教育に携わっているところだし、それを変わるっていうことはやっぱり国の方針に反するわけにはいかないところがあるので、難しいところであると思うんですけど、そこら辺独自の取組とか、実行委員を立ち上げるとか、何かそういったプロジェクトっていうのは市の方で何か作れることはないでしょうか。</p> <p>視点が過ぎしやすいとかウェルビーイングの考え方ではなくてももう少し歳入を増やすといった行財政改革の視点でそういうプロジェクトができないものかと考えているんですがどうでしょうか。</p> <p>何かそういった取組があるのかどうかとか、そういう考えは難しいのかどうかとかちょっとそこら辺のところが、お答えいただけるようでしたら。</p>
副市長	<p>茅野市の場合、例えば、総合計画の中でも「人」は大きな資産で、将来のまちづくりのために大事で、人があっての町だと思うので、人づくりをやっています。</p> <p>そういう中で教育委員会も、例えば郷土愛を育むために、縄文市民科学習とか、この茅野市の縄文の歴史が世界にも通用するもので普遍性のあるものとか、そういった価値観を育んでいます。</p> <p>そうすると、子どもたちが育ってきて、世界で活躍する或いは茅野市に戻ってくるかもしれないそういった形の人づくりをやっています。</p> <p>それは総合学習の中にも入ってくるし、様々な形で、教科の学習の中にも、例えば、地域愛、郷土愛を育むような学習などを含めてやっているわけなのでその総合学習の70時間だけで人づくりができるわけではない。</p>
学校教育課長	<p>あと教育だけで、人を動かすということは非常に難しい。</p> <p>委員さんも多分、ご承知のとおりだと思いますが、様々なものがミックスして、重なり合って人が増えてくると考えています。</p> <p>やはり、その人が生活する上で一番の基盤となる生活をしっかり作るためには、そこに仕事があればいけないわけです。まず大人たちがそこで自分の家庭を築ける、営めるといえることがしっかりとないと、いくらいい教育があったとしても、それだけでは来ない。複合的な、様々な要因が重なって、そ</p>

委員	<p>こに来るといふふうに考えておりますし、それは間違いないと思います。</p> <p>テレワークだけで暮らせる方もいらっしゃるれば、やっぱりリアルで会社に通うっていう方が、いまだ多いと思いますので、様々なものが重なり合っ て、人が呼べるような、その中の1つとして教育っていうのが、その要因になればいいなどは思いますけれども、あまりこう強く茅野市のカラーを出すことができるかどうかっていうのはまだまだわからないところです。</p> <p>今のこのわからない状態は多分、他の都市でも同じ悩みであるのかなと思 っているんで、それを横断的に各課の方たちや、有識者の方たちが集まった そういうプロジェクトとして、何か立ち上げる事例とかそういうことはない かなと思っているんですが。</p> <p>というのは、例えば私岡谷にも教室があるので、下諏訪では1人の議員さ んが立ち上げた、英語特区が長い間効果を奏していて、私大手の英会話教室 にいたんですけど、隣をまたげばいいだけだからと言って、下諏訪に引っ越 して、そのサービスを受ける人もいたりとかするんですよ。</p> <p>取り合いの話になるのでそれがいいかどうかというのはちょっと置いとく んですが、その茅野市でそういった取組をしているというだけでも相当期待 感を持つ。</p> <p>私も不登校の生徒とか、琵琶湖の方の神照町に住んでいる不登校の生徒と か、ADHDの子をオンラインで見たりもしているんですけど、そういう子たち の話を聞いてみても、相当行政地区によって、教育のあり方は異なるん ですよ。</p> <p>そこの部分っていうのは、今何もないからこそ、何か打ち出したら相当期 待感を持って皆さん移住を考えてくださったりすると思っているので、ある 程度の投資みたいな答えみたいなものをいただけたら、逆にもう無理です つていうんだったら、またそれで市民レベルで考えればいいことなので、あれ ですけど。どうでしょうかね。そういう予定とかありませんか。</p>
市長	<p>今茅野市は、大体年間に700人くらいの方がお亡くなりになって、さっき 言ったように300人ちょっと欠ける方が生まれてくる。</p> <p>ざっくり言うと400人くらいが、自然減という形になっています。</p> <p>その中で社会増は昨年が120人ぐらい。一昨年は220～230人という形で、 実は社会増を続けてきています。例えば、8 Peaks livingで6つのお店がオ ープンしました。そのうちの4店舗は移住者がやっているお店になります。</p> <p>ということで、移住交流事業を促進するということは、我々としては非常 に重要視をして、今までもやってきています。それは、いきなり移住とい うところではなく、まずは茅野を知ってもらう、そしてまた茅野に来てもら う、そして茅野はいいからここに住もうかな、という形の人たちを増やそう と思っております。</p> <p>そういった中で、教育が1つ特徴を作ればいいなどは思っておりますけ</p>

	<p>れども、現状において、そこだけ特化していくことは難しいと考えているところでは。</p>
副会長	<p>それでは今後の進め方についてということで市民アンケートも実施される予定というふうにさっき伺いました。委員さんで、他にあれば。</p>
委員	<p>市民アンケートが次いつ頃などの具体的な目標はありますか。何月頃とか。</p>
学校教育課長	<p>今現在、何月とは言えません。</p>
委員	<p>まだそこまでいってないということか。</p>
学校教育課長	<p>お示ししたいと思っている案が、まだ今検討中の段階です。それが整ってこなければ、アンケートだとか、市民対話だとかの日程をお示しできないので、もうしばらくお待ちいただきたい。</p>
委員	<p>アンケートのとり方とか、今デジタルも使える方法もありますので、今までのやり方で、拾えなかった声等を、他の年代であったり、他の層であったりとか、その辺をなるべく幅広く拾えるような流れに持って行っていただければと思います。</p> <p>その方が今までの今の話にも繋がってくる流れになるかなっていうところもありますんで、その辺ちょっとよろしくお願ひしたいです。</p>
副会長	<p>8 その他</p> <p>もしなければ、次に進めたいと思いますがよろしいでしょうか。それでは、8その他ということで次回の審議会の日程のご説明を事務局の方でお願いいたします。</p>
行革推進係長	<p>私から4点お願いします。</p> <p>1点目が、次回、第2回目の行財政審議会は7月1日水曜日に開催予定ですので、ご予定の方をお願いいたします。</p> <p>2点目です。審議会の報酬と交通費についてです。会議にご出席いただいた委員の皆様には、市の規定に基づいて報酬と交通費をお支払いさせていただきます。前期からの委員の皆様はご承知いただいていると思いますが、会議ごとのお支払いではなくて複数回分をまとめて振込の方をさせていただきたいと思っておりますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>3点目が新しい委員の皆様には、本日机の上に、連絡用紙と個人番号利用目的同意書兼個人番号提供書を配布させていただきました。</p>

副会長	<p>連絡用紙は報酬等の振込口座と当日の資料の提供方法をご記入いただくような形になりますので、会議終了後にご記入いただいてこちらの方にご提出をお願いします。</p> <p>個人番号利用目的同意書兼個人番号提供書につきましては、これまで市の方へ個人番号をご提供いただいていない方のみ、ご提出いただければと思いますのでよろしくお願いします。</p> <p>9 閉会</p> <p>はい。ありがとうございました。以上で本日予定しておりました審議会議事項はすべて終了いたしました。どうもありがとうございました。開始から3時間あまりで、大変お疲れだと思いますけれども、今日は大変ありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして第1回の茅野市行政行財政審議会を閉じたいと思います。どうもお疲れ様でした。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
-----	--